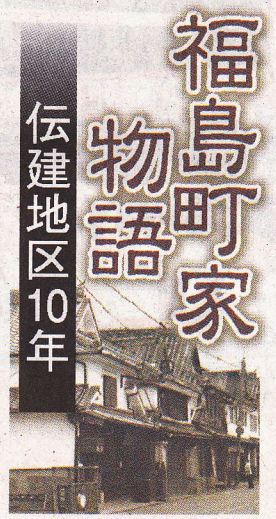
西日本新聞　2012年(平成24年)5月27日　日曜日

福島町家物語

伝建地区10年



■□2□■

絵本の世界さながらに

驚き

左右二つの入り口がある不思議な家がある。右の扉を開けると、4畳分の空間に、約50冊の世界の絵本が並んでいた。

八女市福島地区に25日にオープンした「えほん屋ありが10匹」。4月に志免町から引っ越してきた伊藤寛美さん(41)が、調理師をしていた保育園勤務時代の体験を基に、感性豊かな子どもたちを育もうと始めた。

店の扉は改築して作られたものと推測されるが、手元には床面積(約83平方メートル)を記した見取り図1枚があるだけで、いつごろ、何のために作られたのかは謎のままだ。「そんなちょっとした秘密や不思議があってこそ楽しめる町家生活。この家は絵本の世界さながらの体験ができるんです」

入り口に戻り、左の扉を開ければ幅1メートル、長さ12メートルの通り土間が奥まで続く。1カ月前には、粕屋町から遊びに来ためいの片渕亜美ちゃん(8)とおいの力也ちゃん(1)が、この不思議な世界に足を踏み入れた。

黒く大きな柱やはり、昼間でも薄暗い部屋にはひんやりした空気が漂う。姉弟には家の中にいろんなものが見えるようで「トトロの家だ」「まっくろくろすけを探そう」と、宮崎駿監督のアニメ映画に出てくるキャラクター探しに夢中になった。

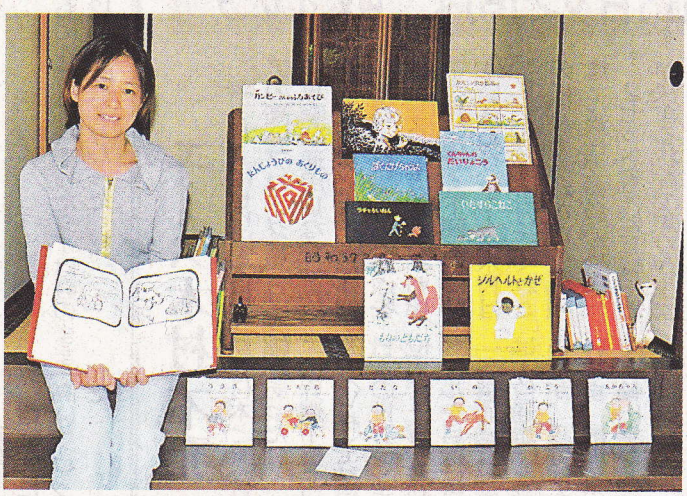
押し入れやたんすの引き出しを開けるたびに歓声を上げる亜美ちゃん。歩くときしむ音がする板間が気に入ったのか、室内をグルグル走り回る力也ちゃん。「日ごろ家の中で大声を出したり走ったりは母親に怒られるらしく、余計に楽しかったのかも」と伊藤さんも目を細める。

姉弟が最後まで気になったのが鍵のかかった引き戸。見取り図には押し入れとあるが、奥には階段があり、2階には仏壇が置かれているという。実は伊藤さんも足を踏み入れたことはない。先祖の供養のためお盆やお彼岸には大家が訪れるのだと、入居の際に不動産業者から聞かされた。「大家さんとはまだ面識がないんです。不在の時、入り口近くの物が動いていた形跡があるから、いらしたことはあるのかも。それとも本当にトトロがいるんでしょうか…」

伊藤さん宅のように2階建ての1階部分だけを貸す町家は福島地区内に3軒ある。人が住むことで風通しが良くなり、柱や畳を腐らせる腐朽菌やカビの繁殖を防ぐ効果があるという。町家保存の有効策ともいえる。

八女を舞台にしたドキュメンタリー作品を撮る映画監督の夫有紀さん(32)と2人で暮らす伊藤さん。不安もある。「間もなく梅雨。町家には巨大ムカデが出るという話が…。覚悟はしてます」

秋には楽しみが待っている。9月に近くの福島八幡宮で開かれる国指定重要無形民俗文化財「八女福島の燈籠人形」だ。「ひょっとして、夜風に運ばれて三味線や太鼓のすてきな音色が聞こえてくるかも」。子どものように目を輝かせた。



道路に面した和室を利用してオープンした「えほん屋ありが10匹」。希望者には伊藤寛美さんが絵本を読み聞かせる

えほん屋ありが10匹

金、土、日曜と祝日の午前11時～午後6時にオープン。伊藤寛美さんが選んだ世界各国の絵本約50冊を販売。リクエストに応じて伊藤さんが読み聞かせを披露してくれる。八女市本町。同店＝0943(24)9595。